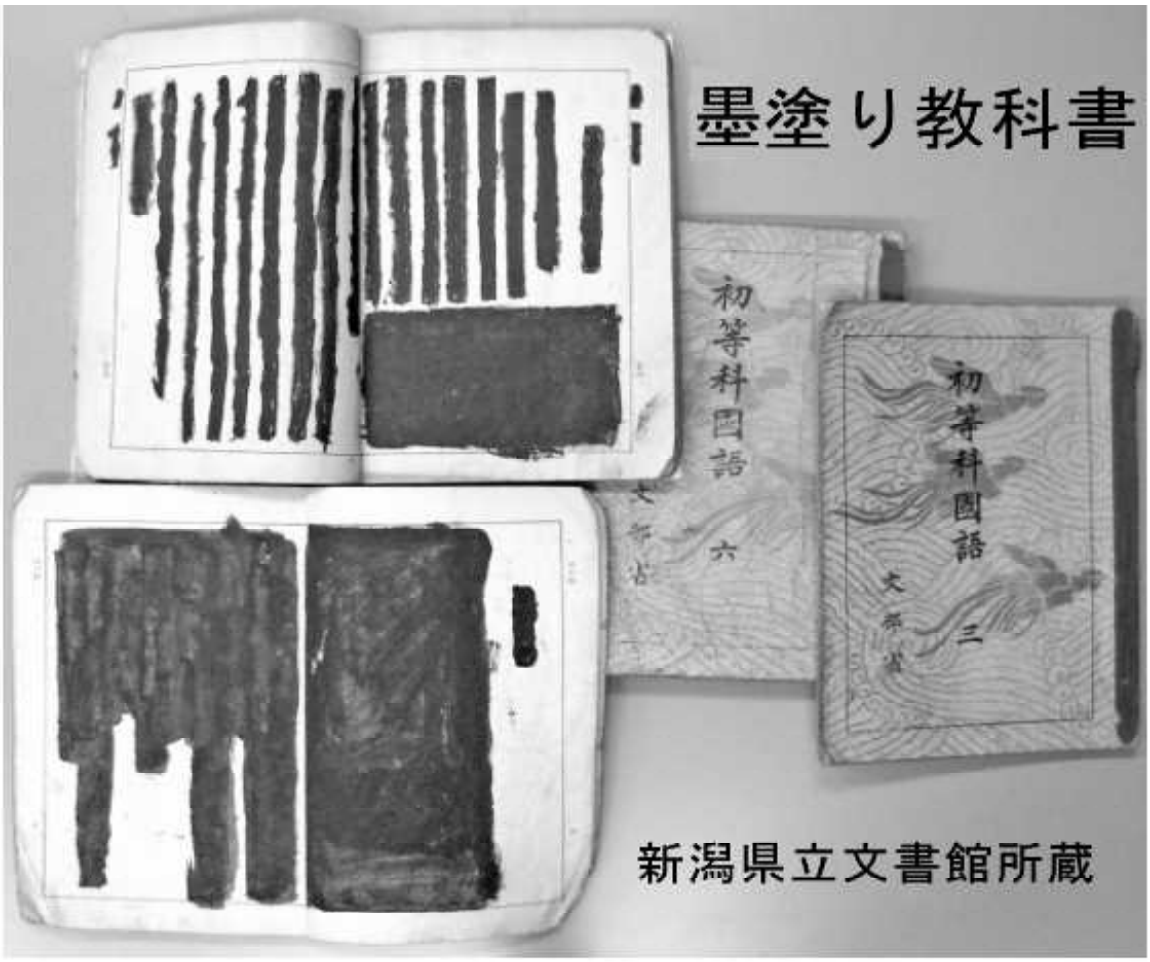
墨塗り（すみぬり）教科書に見る終戦直後の混乱

終戦直後、進駐軍は、「教科書のうち戦争の意識を高めるような文章の所を墨汁で塗りつぶして読めないようにする」命令を出しました。これはぞくに墨塗り（すみぬり）教科書とよばれるものです。学校では、終戦の翌年の昭和21年1学期始めから、子ども達による作業が始まりました。また、伊佐具神社の祭礼日は休校日でなくなりました。さらに修身（しゅうしん：今の道徳）、国史（日本史）、地理の授業がなくなって、教科書も廃棄（はいき）となりました。

敗戦後の急な変わりように、とまどう子どもたちや先生も多かったようです。先生の教育方針や考えを変えるべく、米国の教育使節団は、教員向け講習会を夏休みに連日で開きました。講習後には審査会を開き、不適格とみなされた先生は二度と教壇（きょうだん）にあがることはできませんでした。

その後昭和22年には、国民学校は小学校、中学校となり、6・3制が発足しました。新しい学校制度の実施とともに、 GHQ（連合国軍本部）の提案の下で「文部省著作教科書」が刊行されることになりました。このように敗戦とともに、学校の教育現場は大きく変わっていくのでした。